

母親が知的障がいのある子どもを親元から離す心理的プロセス

—緊急に入所施設利用に至った2事例から—

The process of living apart from their adult offspring with mental retardation for ageing mothers

—With focus on unexpectedly utilization of residential placements—

山田 哲子

Yamada Tetsuko

東京大学大学院 教育学研究科

Graduate School of Education, The University of Tokyo

Key words: mental retardation, family support, TEM

目的

老年期の知的障がい者家族には、「成人した子どもの生活場所の選択」に関する支援が重要である。子どもを入所施設に託すと、家族には介護負担軽減やQOL向上などの良い変化が起こると報告されているが、同時に専門家からの子どもを入所施設に預ける提案を拒絶する家族の存在も指摘されている (Smith ら, 1995)。このことは「子どもを親元から離すこと」を改めて家族の視点から理解する必要性があることを示している。両親が健在の状態での子どもを入所施設利用を決定した親にアプローチした研究によると (山田, 2010), 両親は、子どもの為に施設利用に向けて行動する<1. 施設利用準備時期>, いざ親子が別々の生活になる<2. 施設利用開始時期>, 親子別々のライフスタイルが確立する<3. 安定期>の3段階の心理的プロセスを体験していた。しかしこのように計画的に施設利用に至った家族と緊急に施設利用に至った家族では心理的プロセスが異なると思われる。そこで本研究では、入所施設の利用を余儀なくされた親に焦点を当て、子どもを親元から離して現在に至るまでの心理的プロセスを明らかにすることを目的とした。

方法

Y 入所施設を利用中の母親二名に半構造化面接のインタビューを行った。調査時期は2011年7月、データの分析方法はサトウ (2009) の提唱する複線経路・等至性モデル (TEM) を用いた。

結果

【子どもを親元から離す】ことを等至点とし、緊急に入所施設利用に至った親の心理的プロセスを明らかにした。その結果、【親が在宅ケアを担えない状況になる】から【子どもを親元から離す】までの<1. 緊急期>, 【子どもを親元から離す】から【子どもが安定したと思う】までの<2. 葛藤期>, 【子どもが安定したと思う】からの<3. 安定期>に分かれた。

母親の手術や体調不良などから【親がケアを担えない状況になる】と、子どもの在宅ケアを続けるつもりだった母親は「ケアを担えないならば仕方が無い」と諦めの

気持ちから入所施設利用をしていた。先行研究の指摘にあるように施設利用後に【母親が不安定になる】が、本研究の母親は「子どものケアを担えなかった罪悪感」を抱いていた。尚、この【母親が不安定になる】は【子どもを親元から離す】後だけでなく、【施設を変更する】後にも再度経験されていた。【施設職員に信頼感を抱く/不信感を抱く】は重要な分岐点であり、親が施設に信頼感を抱けるか否かに影響していた。また、<3.安定期>に入っても母親は【施設への信頼感と (子どもと離れて) 寂しい気持ち】を体験していた。

考察

在宅ケアを希望していた親が緊急に施設利用を余儀なくされた場合、子どもと一緒に居たい気持ちや“親が子どもを施設に預ける”ことのネガティブな意味づけが施設利用に対して抵抗感を生んでいた。その為、家族に対して「子どもの将来の生活場所」の心理教育や、実際に入所施設を見学する機会などを提供する必要性が考えられる。また施設利用後には、施設スタッフと子どもについて話せる機会を設けること、施設利用中の保護者とやりとりを持つこと、想定外に子どもを親元から離すことになった思いの傾聴などが必要と思われる。さらに家族が子どもを施設に預ける生活に慣れたと思われた後でも、在宅ケアを継続したかった思いを抱いている可能性がある点から、継続的な心理的ケアが求められるだろう。

参考文献

サトウタツヤ 編著 (2009). TEMで始める質的研究—時間とプロセスを扱う研究をめざして. 誠信書房

Smith, G. C. Tobin, S. S., & Fullmer, E. M. (1995).

Elderly mothers caring at home for offspring with mental retardation: A model of permanency planning. *American Journal on Mental Retardation*, 99, 487-499

山田哲子 (2010). 成人知的障がい者家族における「子どもを親元から離す」ということ—入所施設利用の決定をめぐる夫婦の体験に焦点を当てて—. 東京大学大学院教育学研究科修士論文